

□議員名：恒松 恵子

1 本市の教育行政の取組について

論点	不登校の人数が令和3年度に急増した。様々な要因や原因が考えられるが、本市の現状と対策はどうか。
回答	登校するという結果のみを目標にするのではなく、児童生徒が自らの進路を主体的に捉え、社会的に自立することを目指して校内外を問わず支援している。未然防止の取組として臨床心理士による研修会、関係者による検討会議等を開催し、各々の状況を踏まえた取組が図られるよう教育委員会は支援、指導を行っている。

論点	コロナ禍で新たに発生した不登校に対する特別な現状があるか。あれば支援体制はどうか。
回答	コロナ禍において学校の休校や学級閉鎖等が直接的な原因となって不登校が発生しているということはない。学級閉鎖や濃厚接触者により登校できない子供たちには、オンラインでの授業や端末で朝の健康観察を実施し不安の解消に努めている。

2 小中学校に設置してある遊具、体育用具、植栽してある樹木などの安全対策への取組について

論点	学校の校庭には様々な遊具や体育用固定設備がある。これらの点検についての現状と、点検義務のない体育用具などについての管理について聞く。
回答	学校保健安全法施行規則第28条に基づき各学校が月1回実施している。その他各学校で日常的な点検を行うとともに年に一度は専門業者による点検を行い、安全の確保に努めている。体育用具については安全点検の項目にないが、日常的に消耗度や老朽度を確認している。

論点	インクルーシブ公園の設置や体に支援が必要な子供たち用の遊具もあるが、新規導入に際してどのような判断で行っているのか。
回答	現在、遊具の整備については不足している学校から順番に整備して

	いる。最近は毎年1校ずつ整備しており、令和3年度に須恵小学校、令和2年度に高泊小学校で整備を行った。体に支援が必要な子供たちへの遊具は考えていない。
--	--

論点	樹木については学校保健安全法に具体的に示されていないが、安全対策にどのように取り組んでいるのか。
回答	樹木についても倒伏や落枝、木が倒れたり、枝が折れたことによる重大な事故等の発生リスクがあることから、学校において日常点検にて安全確認を実施している。リスクがある樹木が確認された場合は、立ち入り禁止の応急措置をするなどの対策を行ったのち現地を確認して必要な対応を実施している。

論点	樹木について児童生徒や地域に与える効果はどのように考えているか。
回答	学校の景観木として子供たちが季節の変化を感じたり、夏には日陰になったりするなど、潤いのある学校生活に寄与している一面も樹木にはある。地域のランドマークとして大切にされている樹木もあるので伐採等を行う際には、学校や地域と情報共有しながら対応していく。

3 住みたいまちを目指して定住促進の観点から若者への助成金の実現について

論点	出産祝い金と入学祝い金が創設されたが、二十歳を迎えた市民に対して成人祝い金、または同等のクーポンなどの支給について考えはあるか。
回答	成人年代に対する給付金については、若い世代に対して本市に住み続ける機運醸成を図るための事業の手法の一つとしては理解しているが、現在は子育て支援の給付を重視しているところであり、20歳への直接的な支援は考えていない。

論点	婚姻時に新生活の準備費用として新たな補助事業を実施する考えが
----	--------------------------------

	あるか。
回答	結婚生活を応援する事業については国において新生活のスタートアップに係る新居の家賃や引っ越し費用等を支援する自治体に対し、その支援額の一部を補助する制度が設けられているが、本市では国の制度に沿った事業は実施していない。

論点	結婚新生活支援事業について、各市町の内容が関心の高い結婚情報サイトにも掲載されている。本市も国の制度を利用し何らかの事業を行いステージに上がる必要があると思うがどうか。
回答	この補助金は地域少子化対策という交付金であるが、本市にとって少子化対策の柱は、子育て支援ではないかと考えている。県内での取組を調べたら、美祢市以外は来年度以降実施しないという状況であり、やはり本市は子育て支援を重点的に行うこととした。